2021年度LAセミナー

ためになる卒論・修論エピソード
～執筆作業から息抜きまで～

2021年10月13日（水）

講師：LA　LIAO

人間総合科学研究科　博士後期課程　芸術専攻　D3

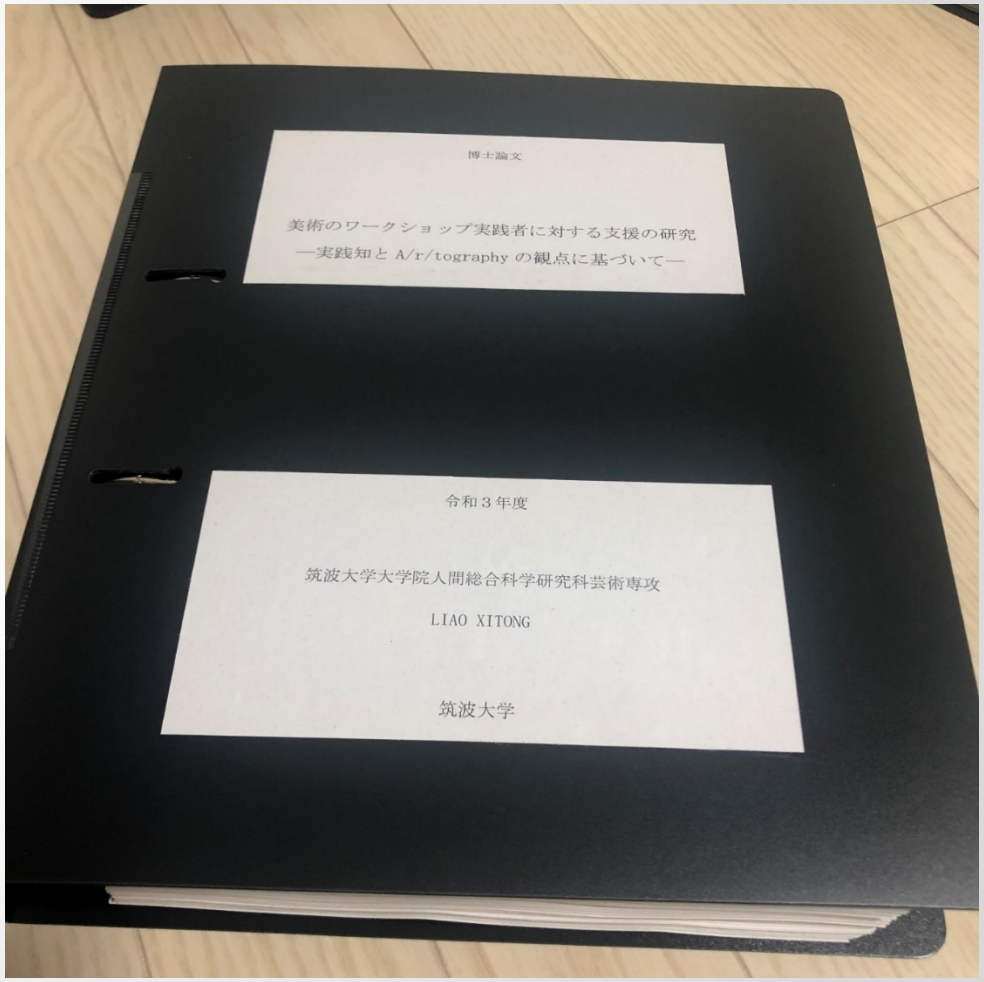
内容

1．論文の流れの決め方

2．執筆計画の立て方

3．文章、執筆のコツ

★(文系)美術教育を専攻するLA個人の経験を踏まえたお話として聞いて頂ければ幸いです。
写真は10月博士論文予備審査の際のものです。



1．論文の流れの決め方

★前提として、すでに研究をある程度進めて

先行研究などの資料やデータが集まって

執筆をはじめようとしている段階

●論文の流れ

背景、目的 → 内容 → 考察、結論

論文の構成、章立てを決める

（例）

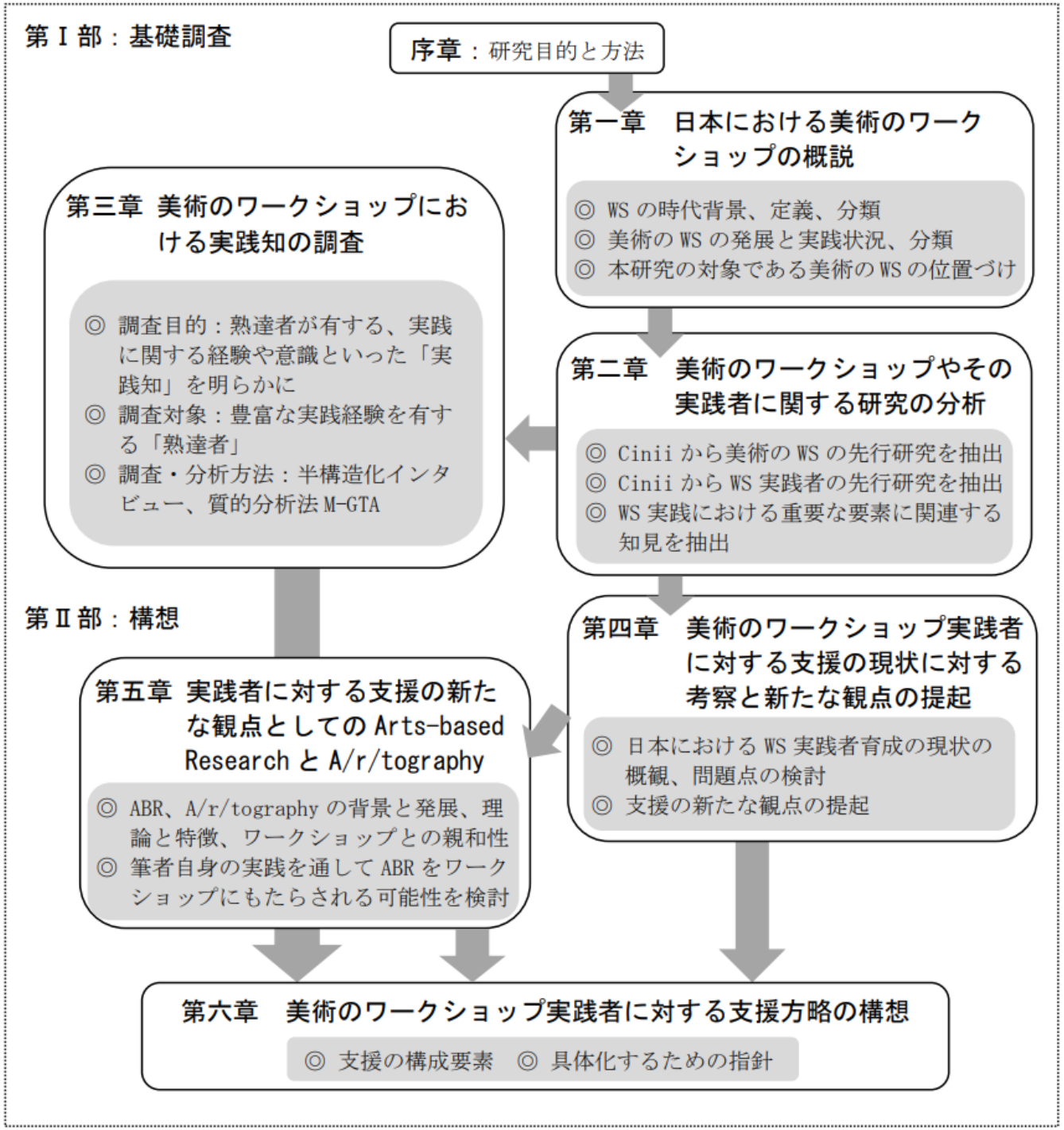
序章	•研究背景、問題の所在、先行研究の状況 •研究対象/目的/方法/手順、論文の構成	序章
概説の章	•研究分野の概説 •現状と問題点（先行研究をふまえ）	第一 ～ 二章
展開の章	•自身の研究内容の展開 •データの収集と分析	第三 ～ 四章
収束の章	•考察と結論 •今後の展望と課題	終章

図式化するとわかりやすい！

論文の構造＆各章の関係

筆者にとって執筆に役立つ

読者にとって理解に役立つ



章の内容構成

- 第1章　XXX

  第1節　XXX

  1.　XXX

  (1). XXX

  ①. XXX

第1節
- 本章の目的（概要）
- 方法と手順

第2節
- 内容

第3節
- 内容

第4節
- 本章のまとめ

章と節のタイトルの付け方

- 目次から大まかな内容が読み取られるような命名
- 簡潔に、具体的に章・節の内容を表す

例：

×美術のワークショップについて

○美術のワークショップの発展と現状の整理

2．執筆計画の立て方（提出日から逆算）

執筆にあたってやるべきことをリストアップし、提出期日から逆算し立てる。
長期的な計画（月単位）、中期的な計画（週単位）、短期的な計画（日単位）
提出するまでのスケジュール、各章執筆のスケジュール、毎日の作業時間と配分など

オプション：就職活動のスケジュール
進学の入試のスケジュールなど

修士論文の製本（2018年度）→
教育研究科（現教育学P）

製本機は4台しかなく、研究科すべての修了生が使うため、余裕をもって提出日（2019/1/9）の５日前に製本しました。（製本した後は差替え不可能）

３．文章、執筆のコツ

① 目的と結論の書き方

② まとめ・結論を書く時のコツ

③ 考察を書く時の注意点

④ 相関関係と因果関係を見極める

①目的と結論を対応させる！

序章 目的、細分化された研究課題、方法と手順	終章・結論 各章のまとめ
○○における○○を明らかにすることを目的とする。	結論：○○における○○を明らかにするために、○○調査を通して、○○方法で分析し、○○が明らかにされた。
本研究の目的を達成するために、以下の研究課題を設け、研究を進める。 ①△△に関する先行研究を整理し、現状と問題点を明確にする。研究課題①を第1章の内容とする。 ②□□に関する調査を通して、□□における、□□に影響する要因を解明する。調査の詳細を第2章の内容とする。	第一章では、△△を整理し、問題点を明確にした。 第二章では、□□対象者に□□調査を行い、□□方法を通して分析を行った。その結果、□□に関する3つの要因が見出された。 ◇◇について総合的な考察の結果、◇◇における◇◇の効果／◇◇に関する示唆／◇◇ついて提言／◇◇に対する影響が認められた／を検討した。
研究方法／先行研究と資料収集の方法と手順／調査の手順／分析の方法と手順は次のとおりである。まず、つぎに、そして、また、さらに、最後に・・・or　①②③・・・	

②まとめ・結論を書く時のコツ（断定できない場合）

- ○○について量的／質的分析を行った結果、△△が◇◇に影響する要因と＿＿＿＿＿＿。

主観的	やや主観的	客観的
と考える	といえる	と考えられる（た）
と思う	といえよう	と推測される（た）
	ということができる	と推察される（た）
	と思われる	と示唆される（た）

- 結論つけに十分（充分）な証拠、エビデンスに基づいて客観的に考察されたかどうか
- 主観的＝ダメ、ではなく、人間（研究者、対象者）の主観性を配慮した上で論を進める
- エビデンスが足りないから恐れるのではなく、「こういう状況、理由でエビデンスが足りなかった」を述べた上で今後の課題に繋げていくのも立派な結論

③考察を書く時の注意点

- 「考察」は何を書けば良いのか？

  自身の研究を振り返って、

  ・どのような研究アプローチを通して、

  どのようなエビデンスから、

  何を明らかにできたのかを再確認

  ・研究アプローチの限界、本研究の限界、適応範囲

④相関関係と因果関係を見極める

Aが変化したらBが変化→相関関係といえる、因果関係とはいえない。

例：【事象】美術学習を通して、A組の学生の成績が全体的に上昇した。

この事象から推測できること（仮説）、どれが最も妥当なのか理由をふまえて考えてみてください。

結論：A)美術学習は学生成績上昇の原因と考えられる。

B)美術学習は学生成績の上昇に影響する一つの要因と推測される。

C)美術学習ができるような教育重視の家庭環境にいることが、成績上昇に影響する要因の一つとして可能性が推測される。

まとめ

- 論文の流れ：図式化するとわかりやすい！
- 執筆の計画：逆算して余裕をもつこと！
- 文章のコツ：目的と結論を対応させる！

事前に頂いた質問に解答

（LA個人の意見、できる範囲で回答）

Q：副指導の先生とはどのようなやりとりをしていたか

Q：毎日やっていたことはあるか

A：副指導の先生がやっている授業をとっていたので、その授業に関するやりとりをしていました。そして、私の専攻では毎年度の4月に前年度の研究成果報告書とその年度の研究計画書を提出する必要があります。副指導の先生に確認し印鑑押していただくためのアポ取りなど、メールのやりとりをしていました。

　毎日やっていたのは、論文のファイルを開いて、数行でもいいので何かしらを書くことですね。あとは、to do listを付箋に書いて目の前の壁やパソコンの周りに貼って、期日前にやることですね。生活面でいくと毎日少しジョギングしています。

事前に頂いた質問に解答

（LA個人の意見、できる範囲で回答）

Q：量的分析と質的分析を一つの研究で行う場合の目次の書き方

A：序章で研究の背景と問題の所在を述べて、分析方法の特性、分析方法を採用する理由、それぞれ分析によって得られる結果の予測、研究結果への貢献を言及しましょう。

書き方は、以下のように、個人的に考えてみました。

第X章　○○(分析法)による○○に関する量的分析

第Y章　○○(分析法)による○○に関する質的分析

第Z章　量的分析と質的分析結果をふまえた総合的考察

一例に過ぎませんが、とりあえず叩き台を作って、指導教員に相談しましょう！

事前に頂いた質問に解答

（LA個人の意見、できる範囲で回答）

Q：そろそろ卒論の準備を進めなければと思っているのですが、卒論執筆の全容が掴みにくいこともあってか卒論が「大層なこと」「手強いもの」に感じられてなかなか着手できないでいます。準備着手のきっかけで何かいい方法がありましたら教えていただけますと幸いです。

A：直属の先輩の卒論を何本か読んでみて（ゼミ室に製本されたものが置いているはず）、これは凄すぎてむり～!!のものは置いといて、このくらいのものならば私もできる！のようなものを見つけるといいのかもしれません。それから、卒論提出までのスケジュールを調べて（先輩や指導教員に聞く）、卒論のテンプレをもらうといいでしょう。

事前に頂いた質問に解答

（LA個人の意見、できる範囲で回答）

Q：論文のフォーマット

A：各教育組織の定めたものがある場合とない場合があります。

指導教員に問い合わせるのが最も確実ですね。

また、ゼミの先輩に聞くと良いでしょう。

指定されたものがない場合は、修了生の論文を参考にするといいかもしれません。

事前に頂いた質問に解答

（LA個人の意見、できる範囲で回答）

Q：修論執筆を期日までに完成させるプロセス（執筆・文献リスト作成・研究室での進捗共有など）で、直面するかもしれない困難にはどんなものがあるでしょうか。できるだけたくさん知っておきたいです。

A：まず、私の執筆プロセスは、提出期日から逆算し、研究計画立てた後、各章の内容を構想し、今すぐできることから順次にやっていく。先行研究の収集と整理しながら序章から順次執筆します。調査を実施する場合は、いつ実施できるのかの計画によって該当する章の執筆計画を立てます。文献リストの作成は文献を扱う章の執筆とともに作ります。私の研究室では月一回のゼミがあり、それに合わせて発表する感じです。そこで、直面するかもしれない困難は、書きながら資料や素材が足りなくなって追加収集が必要の時に、余裕をもって対処すること（私の場合、調査が対面で実施できなくなって、オンラインの実施に余儀なくされたことですね）。あと、例えば博士後期課程に進学する場合、入試の際に修論が必要なので早めに執筆しなければいけないですよね。それから、書き進めるプロセスで、例えば発表でほかの先生からの指摘で大きな修正が必要とされる状況が出てくるのかもしれません。その時は、全部の意見を鵜呑みする必要はありません。慌てずに、指導教員に相談したうえで、いったい自分はどういう研究、どういう論文にしたいのかをはっきりした上で調整するといいかもしれません。自分の研究に信念もつこと！

事前に頂いた質問に解答

（LA個人の意見、できる範囲で回答）

Q：指導教員から言われて元気になって研究が進んだ言葉、逆にこれを言われてショックで論文が止まってしまった、など、教えてください。

A：はじめて学会への投稿論文を書いた時のエピソードですが、条件付き掲載という結果で、査読者から大幅の修正が求められて、泣きたくなって指導教員に「この論文を辞退したいです」と相談しました。指導教員から、「せっかく書いたので辞退するともったいない。査読者は論文を否定するのではなく、より良い論文を作るアドバイスをくれているから。その意見が絶対ではなく、参考に修正すれば大丈夫です。」と言われて、修正して再投稿したら通りました。

事前に頂いた質問に解答

（LA個人の意見、できる範囲で回答）

Q：漠然とした質問で恐縮ですが、どうすれば段取りの良い研究計画を立てられるでしょうか。

A：個人的には、まず研究にあたってやらないといけないことをリストアップして、優先順位をつけると良いと思います。そして、教育組織に提出期日、中間発表の期日、題目提出の期日などスケジュールがあると思います。それらを参考に、何月何日までどこまで研究を具体化する必要があるのかを決めると良いでしょう。例えば春学期6月と秋学期10月に中間発表会があって、題目提出は11月、予備提出が12月、正式の論文提出が1月と知れば、それぞれの時期までにやるべきことがはっきりします。先行研究の収集、調査の実施、データ収集と分析、論文本文の執筆などを当てはめて研究計画を組み立ていくといいかもしれません。

事前に頂いた質問に解答

（LA個人の意見、できる範囲で回答）

Q：私は言葉がスムーズに出て来ず、普段の2000字程のレポートでも多くの時間がかかり、苦戦してしまいます。そのため卒論の執筆について特に字数の面で、非常に不安です。そのような困難の乗り越え方、また、その苦手意識を克服する方法などがありましたら、教えていただけたらと思います。

A：もし書くこと＝論理的に文章をまとめることが苦手でしたら、まずは声を出して、話し言葉として考えていることを録音やディクテーション機能で文字化してみて、それらを材料に書き言葉に整理（翻訳）していくのはいかがでしょう。たくさんの字数を書くことを気にせず、自分が言いたいことを伝えることをまず考えてください。（ちなみに私の研究科では、字数の指定がありませんでした。）

事前に頂いた質問に解答

（LA個人の意見、できる範囲で回答）

Q：修論に向け、先行文献を読んでいます。社会人のため時間が限られているため文献を読み進められません。文献レビューを書く段階にあるのですが、どの程度先行文献を読んでからレビューを書いたらよいのか戸惑っています。アドバイスを頂けるとありがたいです。

A：個人的には、まず先行研究の概要を読んで、自身の研究と最も関連度の高いものから低いものの優先順位を決めて、関連度の高いものは本文も読んで本研究にとって有用な知見や課題などをレビューするといいかもしれません。